

下水道は初めて。土木職として大阪市入り。以降、約22年間にわたり河川畑を歩み、主に治水関連事業に携わってきた。

なかでも、地下河川を造り大阪湾に雨水を流す「寝屋川南部地下河川建設プロジェクト」は思い入れの強い仕事だ。シールド内径10畳は当時世界最大径。計画、設計、現場とさまざまなセクションで携わった。

「雨水、浸水対策とい

う面では下水道と似た仕事をしてきたし、下水道と連携する機会も少なくなかった。水処理についてはもっと勉強する必要があるが、下水道に対する違和感はまったくない。

ここ数年、大阪市の市政改革が強力にすすめるなか、下水道事業は、だが、簡単ではない。少

なくとも、今のレベルの投資を堅持していく」と力を込める。

「各事業ごとにバランス良く投資するのが理想ではない」と指摘する。

昭和54年3月京都大学大学院工学研究科修了、昭和54年4月大阪市入庁、土木局に配属。63年4月建設局河川改修工事事務所第1工事係長、平成5年4月同土木部河川課防災係長、11年4月同管理部参事・大阪市道路公社出向、15年4月建設局街路部計画課長、17年4月同河川防災担当部長

・土木部河川課長、19年4月同企画室長を経て、21年4月に現職。好きな言葉は「水は方円に従う」。好きな作家は、司馬遼太郎。昭和28年9月29日生まれ、56歳。豊中市在住。

## 新時代の風に対応を



大阪市建設局下水道河川部長に就任した

西尾 誠氏  
にしお まこと

ただ、従来通りのやり方は、今では通用しなくなっているのも事実。

「下水道の外では強い風が吹いている。新しい時代の風に対応するためには、今までとは違った新しい視点に立ち、この難局への対応策を考えていくことが必要」。今後